

■研究推進委員会 活動計画書

提出日：2025年3月28日

| | |
|------------|---|
| 名 称 | 街路樹研究推進委員会 |
| 委員長 | 氏名（所属）：川口将武（大阪産業大学） 連絡先 e-mail アドレス：masa@edd.osaka-sandai.ac.jp |
| 幹 事 | 氏名（所属）：福井 亘（京都府立大学大学院） 連絡先 e-mail アドレス：wfukui@kpu.ac.jp |
| その他 構成員 | 氏名（所属）： 加我宏之（大阪公立大学大学院） 小宅由似（香川大学大学院） 赤澤宏樹（兵庫県立大学／兵庫県立人と自然の博物館） 平林 聡（The Davey Tree Expert Company／米国農務省 Forest Service） 當内 匡（(株)庭樹園） 宮本脩詩（(株)パスコ） 高林 裕（京都府立大学） 山田 匡（E-DESIGN） 守 宏美（兵庫県） 井上雅裕（京都市役所） 安田卓宏（(株)日比谷アメニス／吹田市花とみどりの情報センター） 野上一志（(株)野上緑化） 石井匡志（(株)アゴラ造園） 石出慎一郎（東洋緑化株式会社） 清水謙治（(一社)日本造園建設業協会） |
| 活動報告 成果 | <p>本年度の活動は、以下の2つの項目を中心に実施をした。</p> <p>① 全国大会ミニフォーラムの実施</p> <p>② 構成員による議論と次年度に向けた打ち合わせ</p> <p>① 名城大学にて行われて全国大会でミニフォーラムを実施し、今回で7回目の実施となった。名古屋市緑政土木局緑地部緑地維持課戸子台様と豊橋市都市計画部公園緑地課夏目様から、それぞれの自治体における街路樹再生に関して話題提供を頂いた。これまで得られてきた街路樹の状況、維持、管理に関する問題提起などの点に加えて、街路樹そのものの価値、技術の在り方などを模索することが必要となっており、予算が縮減する中でどういった整備が望ましく、管理はどう進めたら良いのかの課題を示しながら、安全性の確保と都市の魅力向上に向けた今後の在り方を模索し、意見交換をおこなった。あわせて、同日実施された「工事における既存樹木の保全のあり方」のミニフォーラムについて本推進委員会委員が複数名登壇し議論を深めた。</p> <p>② これまでの議論を踏まえ、「見取り図部会」、「計画技術部会」、「価値効果部会」3部会を立ち上げ、委員の専門性を生かした議論を行い、それぞれ1回の部会を開催した。俯瞰性・網羅性を見取り図部会、ひとつを深めるのが計画事例部会。行政策定や各種プロジェクトを行なう際に提示する街路樹の価値に関する研究（調査、レビュー）を通じて提示、可能な範囲で数値の根拠をもって価値を発信するのが価値効果部会。最終的には3つの部会の成果がまとまって、ひとつの成果とすることが目的である。「見取り図部会」では、街路樹適正化計画の方向性を定めるために、課題を網羅的に整理し、計画の具体的指針を明確にすることを目的として議論が行われた。特に、行政や設計者、土木業者、研究者がそれぞれ抱える課題や目的を多角的に捉える必要性が共有され、地方自治体の多様性を考慮しながら、都市の規模や特徴に応じた柔軟な方針を検討する重要性が強調された。議論の中で、街路樹に関する課題を以下の観点から整理することが提</p> |

案された。まず、土壌や植栽スペースの不足といった生育環境要因，剪定技術の低下や専門職の不在といった技術的要因，予算削減という経済的要因が挙げられた。さらに，市民要望や協働体制の欠如といった社会的要因，単年度工事や評価体制の不備といった制度的要因，目標と実施内容の不整合による計画的要因，災害や気候変動への対応という防災的要因，そしてデータ整備と共有の不足という情報的要因も課題として指摘された。

「計画技術部会」では、街路樹に関する設計や管理についての情報が不足していることが指摘され、これらの事例を調査し、近未来的なデザインが本当に適切かどうかを評価し、提案していく必要性が提起された。また、昨年のミニフォーラムで議論された工事の方法についても言及され、現状の設計や工事方法に対して疑問を投げかけることの重要性が強調された。あわせて、海外と日本との比較をすすめることで、日本における計画や管理技術について整理検討することが議論された。